

田中拉致問題担当大臣記者会見要旨

【拉致問題関連部分抜粋】

(平成24年10月2日(火) 13:31～13:45 於：法務省19階記者会見室)

1. 発言要旨

本日の閣議では人事案件がありました。法務副大臣として山花郁夫議員が就任いたしました。また、松野信夫法務政務官については留任ということです。なお、内閣府の副大臣の担当、後日発表されるということで今現在は決まっております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 松原前拉致問題大臣との引継では、どのような話題がありましたか。

(答) 事務引継を行いました。松原さんは大変努力をされておりましたし、家族会の皆さんのことを含め、行事等の参加についても積極におやりになったということで、家族会の皆さんにはできるだけ早くお会いした方がいいだろうということで、今、日程協議に入っているところです。

(問) これだけは、というようなお話はありましたでしょうか。

(答) 10周年という節目を迎えながら課長級の協議は行っているということで、それをしっかり見守りながら、更に延長し部長級、局長級のところまで進めていくことが一番大切だと思っております。そういうことについてはできるだけ協力もしますから、何とかこれを継続してやっていくようにしましょうということでした。

(問) 拉致問題の話に戻りますが、家族会の方とお会いする日程協議をしているというお話でしたが、具体的にいつ頃というのはありますか。

(答) とりわけ10月7日の川崎の行事の問題もありますし、その前後を含めて日程協議をしており、家族会の皆さん方とお話をさせていただきたいと思っております。

(問) 松原前大臣との引継ぎで、田中大臣からお伝えしたことはありますか。

(答) 在任期間10か月ということでありましたが、その前に、松原前大臣はずっとこの拉致問題に取り組んでこられました。私も、国会の拉致議連の一員であったわけですが、松原前大臣はそれを含めて、あらゆるところから情報を収集しておりましたので、そういうことについてまた大臣に対しては今までのそういう結果をこれからも教えてほしいということは申し上げておきました。

(問) 今日、滝前大臣から引継を受けて、訓示でも野田総理からも7つぐらい言われていることがあるとおっしゃっていましたが、特に、田中大臣が重点を置いて進めたい分野があれば教えてください。

(答) 拉致問題等については、被害者の帰国から10周年を迎え、家族の皆さんと同時にスピードを持って対応していかなくてはいけないだろう。淘汰されてはいけないだろうということです。

(以 上)